

# 世界経済の潮流 2016年

< 2016年下半期 世界経済報告 >

- 先進国の低金利・低インフレ 中国の地域間格差 -

2017年1月

内閣府  
政策統括官（経済財政分析担当）

# 目次

## 第1章 先進国における低金利・低インフレ

第1節 低金利・低インフレとは

第2節 マクロ経済政策に関する昨今の議論のサーベイ

第3節 金融政策の評価に関する実証分析

## 第2章 主要地域の経済動向と構造変化

第1節 世界の経済動向と課題

第2節 アメリカ経済

第3節 ヨーロッパ経済

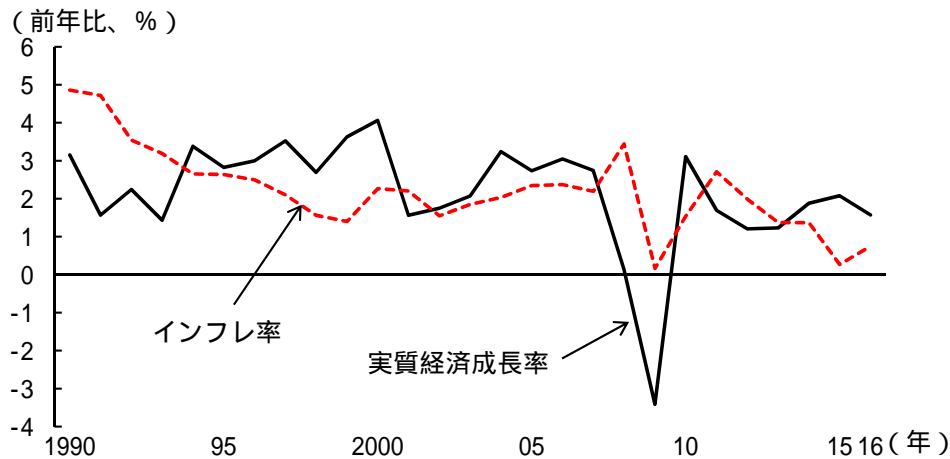
第4節 アジア経済

第5節 国際金融資本市場と商品市場の概況

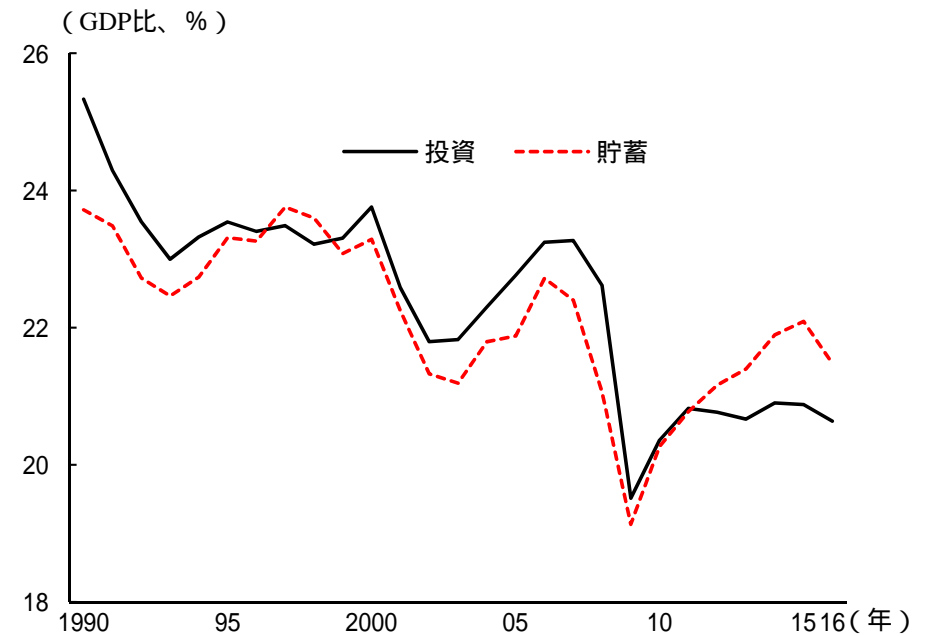
# 第1章 先進国における低金利・低インフレ

- 先進国を中心に低金利・低インフレが進行。
- その背景には投資の減少などを通じた貯蓄・投資のバランスの変化が挙げられる。

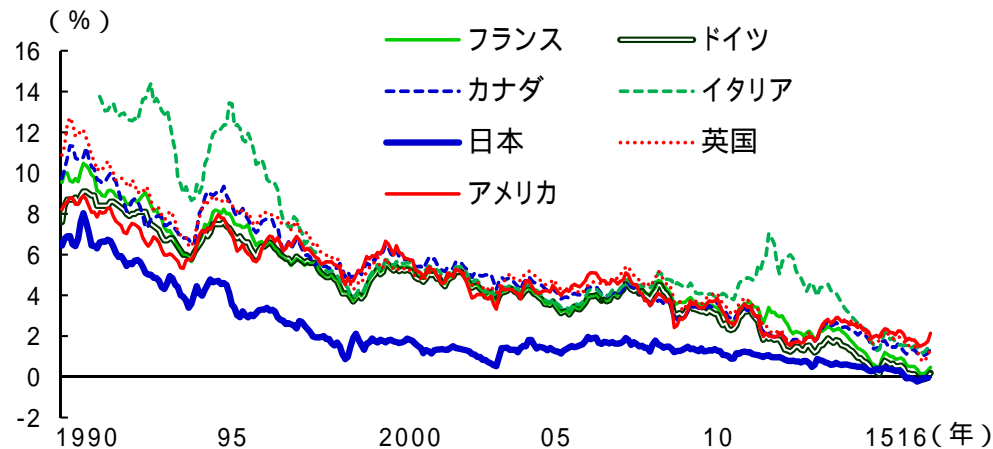
1 - 1 図 先進国・地域の実質経済成長率、インフレ率



2 図 先進国・地域の貯蓄と投資



1 - 2 図 G7各国の10年国債利回り



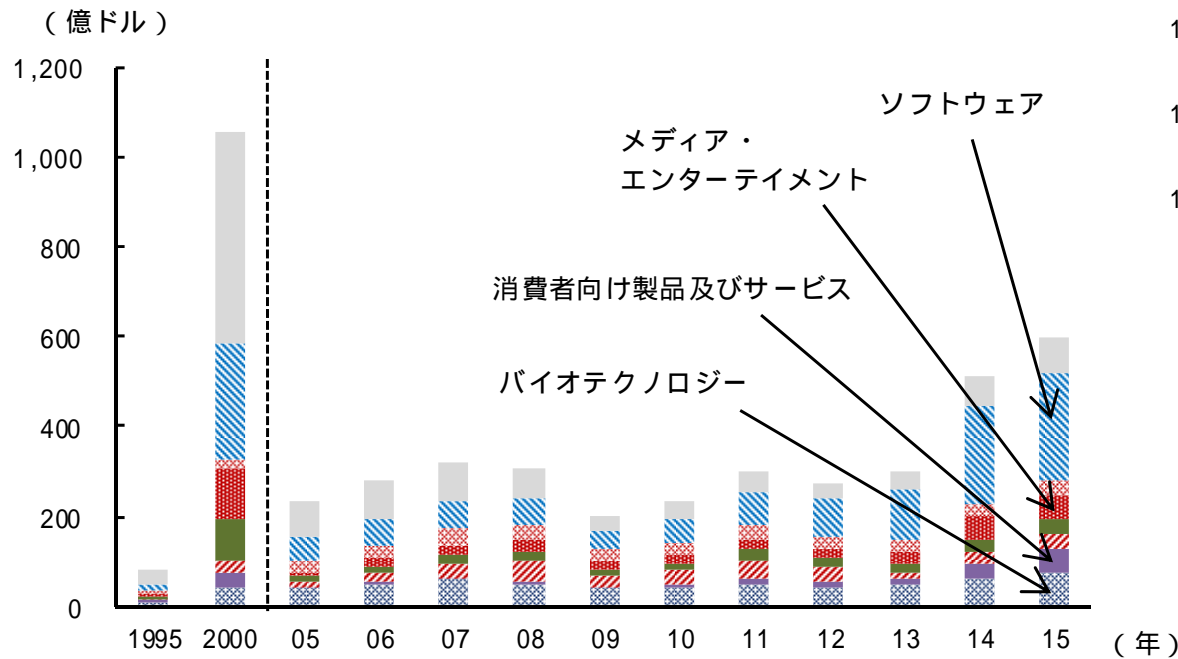
(備考) 先進国・地域は、IMFの分類による(OECDに加盟する35か国からチリ、ハンガリー、メキシコ、ポーランド、トルコの5か国を除いた30か国及びキプロス、香港、リトアニア、マルタ、マカオ、プエルトリコ、サンマリノ、シンガポール、台湾)。

## 第2章 主要地域の経済動向と構造変化

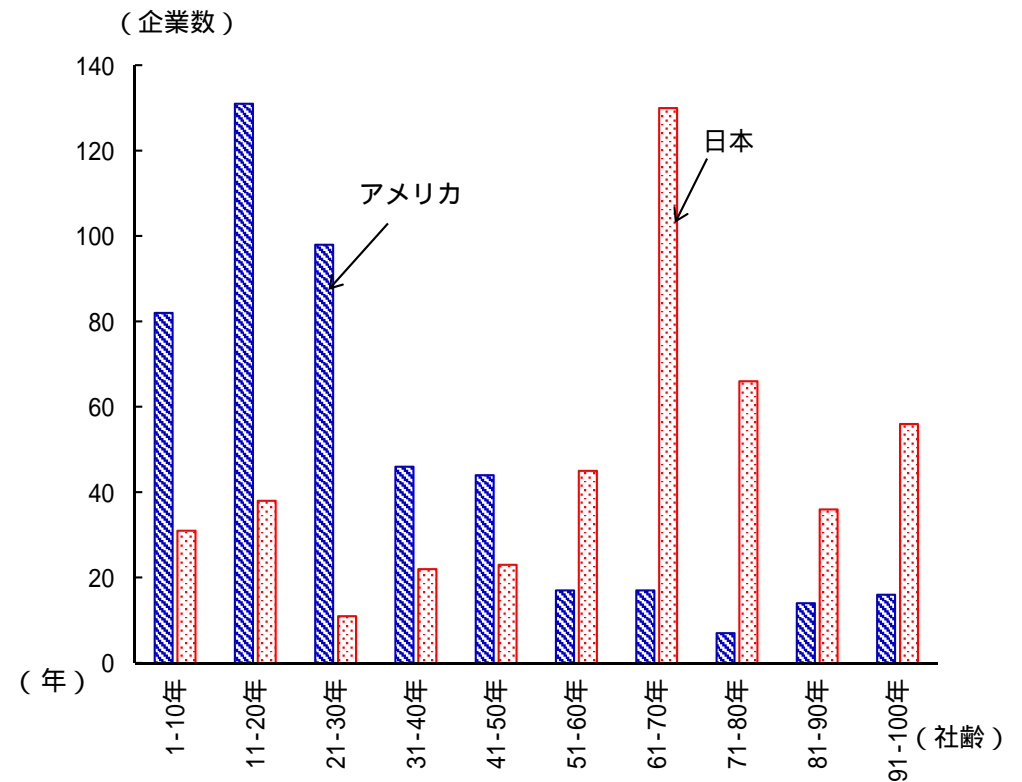
### (アメリカ経済)

□ アメリカ経済は回復を続けている。ベンチャーキャピタル投資額が近年再び増加しているほか、売上高上位の企業に占める社齢の若い企業の割合も高いなど、企業の新陳代謝もアメリカ経済の成長を支えている。

3図 ベンチャーキャピタル投資額



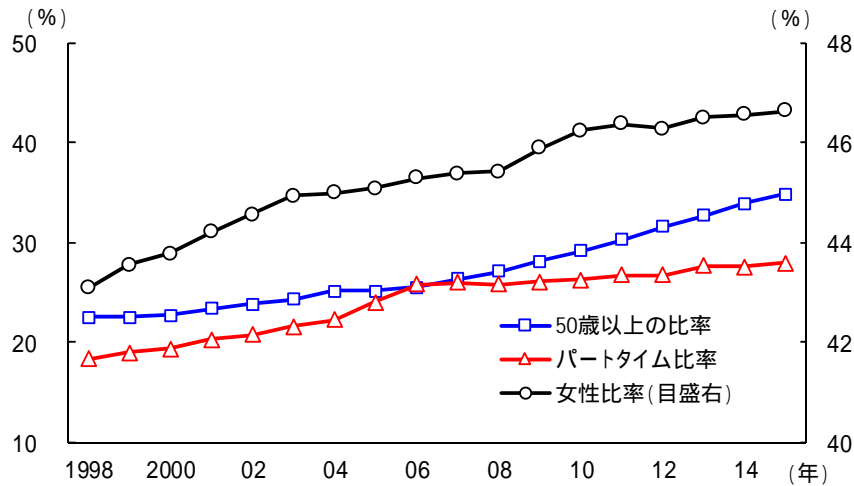
4図 日米の社齢別企業数 (売上高上位500社)



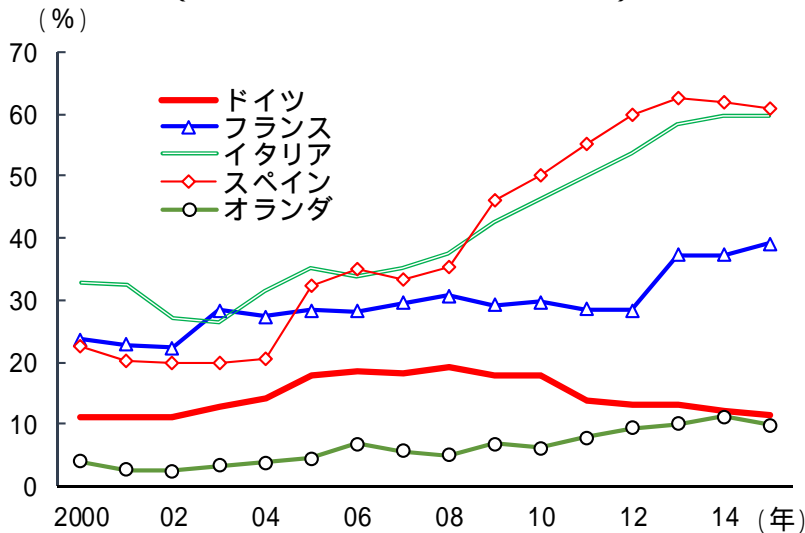
# (ヨーロッパ経済)

- ユーロ圏の中で比較的好調に推移するドイツ経済は、2000年代前半の労働市場改革により、雇用の多様化が進んだ。パートタイム比率は上昇したものの、非自発的パートタイム労働者比率は低位で推移。
- 労働市場改革により、人口減少下においても労働力の増加が経済成長に寄与。

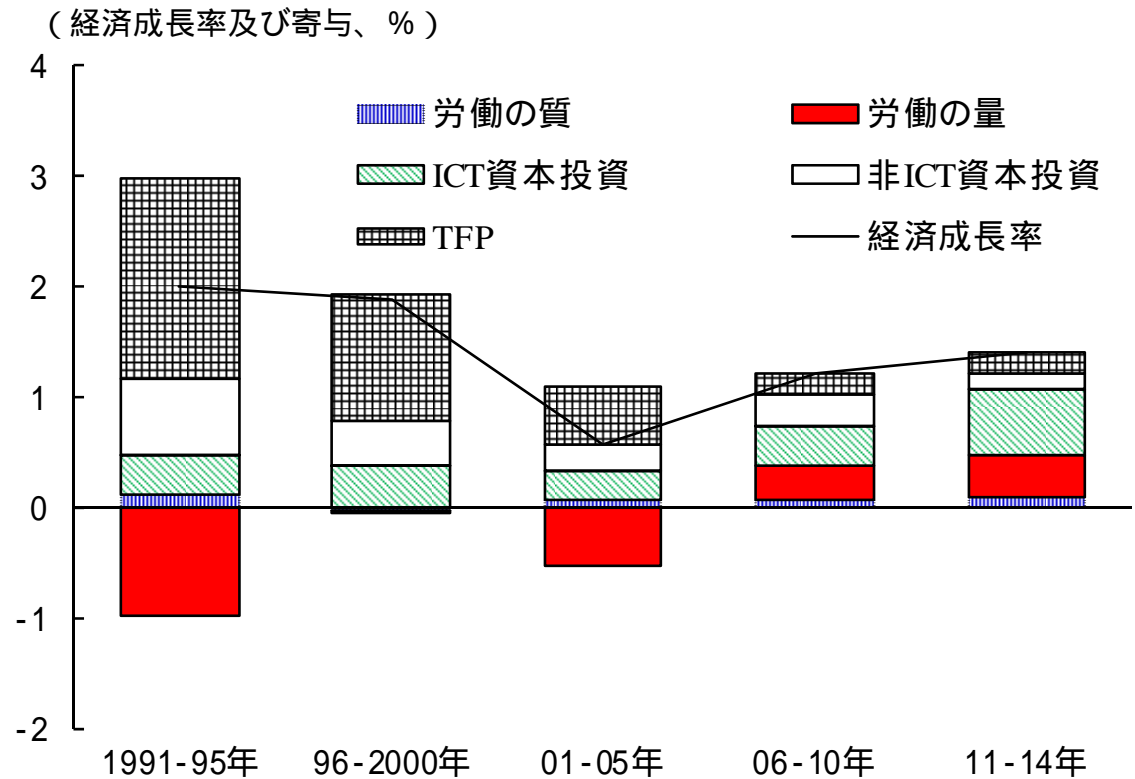
5図 ドイツの就業構造の変化



(非自発的パートタイム比率)



6図 ドイツの実質経済成長率の要因分解



# (中国経済)

- 中国では地域別の産業構造に大きな違いがみられる。
- 北部・東北部には石炭、鉄鋼等の構造不況業種が集積。一方、東部・中南部には自動車産業やハイテク産業が集積。

7図 業種別地域別生産量シェア (15年、対全国)

(参考) 今回の分析における地域区分

